

Cyber Cleaner 導入事例 信組情報サービス株式会社 様

# 万全のサイバー攻撃対策で業務システムを防衛 社内のセキュリティ思想強化にも拍車がかかる

信組情報サービス株式会社(以下:信組情報サービス)は、全国の信用組合に対するコンピュータサービスを提供する企業だ。預金・貸付・為替取引など、信用組合及びその関係団体の金融取引業務のシステム処理を巡る受託業務をはじめ、共同型による各種金融関連システムの提供、利用促進など広範な事業を展開している。同社は増大するサイバー攻撃の脅威から社内業務システムを守るため、ギデオンの「Cyber Cleaner」を導入、確かな成果を上げている。

## お客様の課題

- ≫大量の処理負荷を送出するDDoS攻撃などへの危惧が拡大
- ≫社内ネットワークにおける強固なセキュリティ対策の必要性

## 導入の効果

- ≫既存ネットワークに影響を与えずスピーディな導入を実現
- ≫不審なパケット数が約1/3に激減し通信内容の可視化に貢献

## 公共性の高いシステムを担う企業として

動定系/情報系にわたるシステム開発や共同センターの運用を通じて、信用組合の金融業務全般をサポートしている信組情報サービスは、極めて公共性の高い役割を担っている企業だ。そのため、全国の信用組合とつながるネットワークとは別個に構築され、クローズドな環境にある社内ネットワークに関しても、強固なセキュリティ対策の必要性を感じていた。というも、万一サイバー攻撃などに見舞われた場合に、例えば実害はなくても風評被害などによって、自社はもちろん信用組合全体のブランドイメージを損なうことにもなりかねないからだ。

同社の社内ネットワークのセキュリティ戦略を立案する支援相談部 信組サーバ課 参議役 小澤徳男氏は、こう語る。

「これまでも標的型攻撃メールをはじめとするセキュリティ対策を追求し、インターネットにつながるネットワークについても二重化による負荷分散を図るなどの施策を講じてきました。しかし近年、大量の処理負荷を送出するDDoS攻撃などの危惧が拡大しています。これまで実害はなかったものの、社内ネットワークのゲートウェイのIPアドレスは公開されていないにも関わらず、2015年暮れ辺りから社内ネットワークへのアタックが、感知され始めていたことも事実です」(小澤氏)

## 処理性能や導入のしやすさを総合的に検討

そこで、サイバー攻撃の脅威に対する監視や防御対策の更なる強化の必要性を実感。そのためソリューション導入の検討を開始した。信組サーバ課 課長 竹内千尋氏は、そのポイントを以下のように説明する。

「選定条件は、①導入や運用に対する人的負荷やコスト負担が軽いこと。②将来にわたって確かなサポートやメンテナンス体制が維持されること。③信頼性における国産のソリューションであること、を主眼として選定を進めました」(竹内氏)

以上の要件をベースに検討を重ねた結果、最終的にギデオンの「Cyber Cleaner」の採用を決定。2016年6月末に導入が図られた。

「まずはDDoS攻撃への対策に非常に優れている点を評価しました。さらに、既存のネットワークに影響を与えずPPPoEルータ上位に簡単に設置できる点、処理の速さやコストパフォーマンスの高さなど、実際には他に比較対象となる製品がないという観もありました」(小澤氏)



支援相談部 信組サーバ課 参議役  
小澤 徳男氏

## 導入後に不審なパケットが1/3に激減する

Cyber Cleanerは、社内ネットワークの構成などを一切いじることなく、二重化が図られたネットワークのメインとなる光ファイバー回線の入り口に



支援相談部 信組サーバ課 課長  
竹内 千尋氏

設置された(図1参照)。導入や設定を担ったのは、信組サーバ課で最若手の岡田侑也氏だ。

「Cyber Cleanerの設置はケーブル接続だけなのですぐに完了し、設置に伴うタイムロスが、ビジネスに支障を及ぼす心配もありませんでした。さらに、あらかじめ許可した国以外の通信をシャットアウトし、DDoS攻撃を一層困難にする国別フィルターの設定を実行しました。設定は直感的なユーザ・インターフェースで想像以上にスムーズでした。危険性が考えられる国を洗い出し、トランザクション速度やパフォーマンスなどをひとつひとつ検証しましたが、全て順調に機能することが確認できました」(岡田氏)

さらにCyber Cleanerは、機器自体がIPアドレスを有していないのでアタッカー側からは見えず、攻撃の対象にならないのも大きなメリットだ。また、サイバー攻撃に関する情報は、クラウドから全自動で更新されるので、セキュリティの専門家がいなくても、常に最新のものにアップデートされる。

同社はCyber Cleanerの導入に先立って、前年暮れに不審な攻撃を察知したことを契機として、

## ユーザー企業プロフィール

社 名 : 信組情報サービス株式会社  
本 社 : 〒270-1496 千葉県白井市桜台1丁目2番  
設 立 : 1985年5月1日  
従 業 員 数 : 104名(2016年3月31日現在)

ルーター(F/W)で遮断したパケットを収集・分析するツールを内製し、活用してきた。今回のCyber Cleaner導入に際しても、Cyber Cleanerとこのツールの併用によるチェックを実施している。

「Cyber Cleaner導入前後の各1か月間、ファイアウォールを通過した送信元IPアドレス数をその処理負荷で比較してみました。すると、導入後はファイアウォールで処理するアドレス通信が約1/3に低減(図2参照)していることが分かりました」(小澤氏)

## セキュリティに対する 企業文化醸成へ

またログの分析から、不審なパケットは、意外にも業務のない休日にも多いことが判明した。

「その中身を精査し、IPアドレスを子細に見ていくと海外のメジャーなISPからのものであることも多く、攻撃だと思っていたものが実はレコメンデーションなどプッシュ型の広告である場合があることも分かりました」(小澤氏)

先に述べたように、現在同社のCyber Cleanerは、二重化が図られたインターネット回線のメインとなる光ファイバー回線につながれているが、次のフェーズとしてサブのCATV回線側への増設などを検討している。

「日進月歩のサイバー攻撃対策には、企業や国境の枠を越えた広範な対応が必要です」と竹内氏は語る。

サイバーセキュリティ対策においては、悪意ある第三者からの攻撃対策の一方で、メールや機密



支援相談部 信組サーバ課  
岡田 侑也氏

情報の扱いなど社内体制の強化も不可欠だ。そこで同社は「体系的な対策に加えて、社内ルールやモラルの啓蒙、教育の徹底にも一層注力していきます」(小澤氏)と意欲を燃やしている。

図1: 信組情報サービスにおける社内ネットワークのサイバー攻撃対策

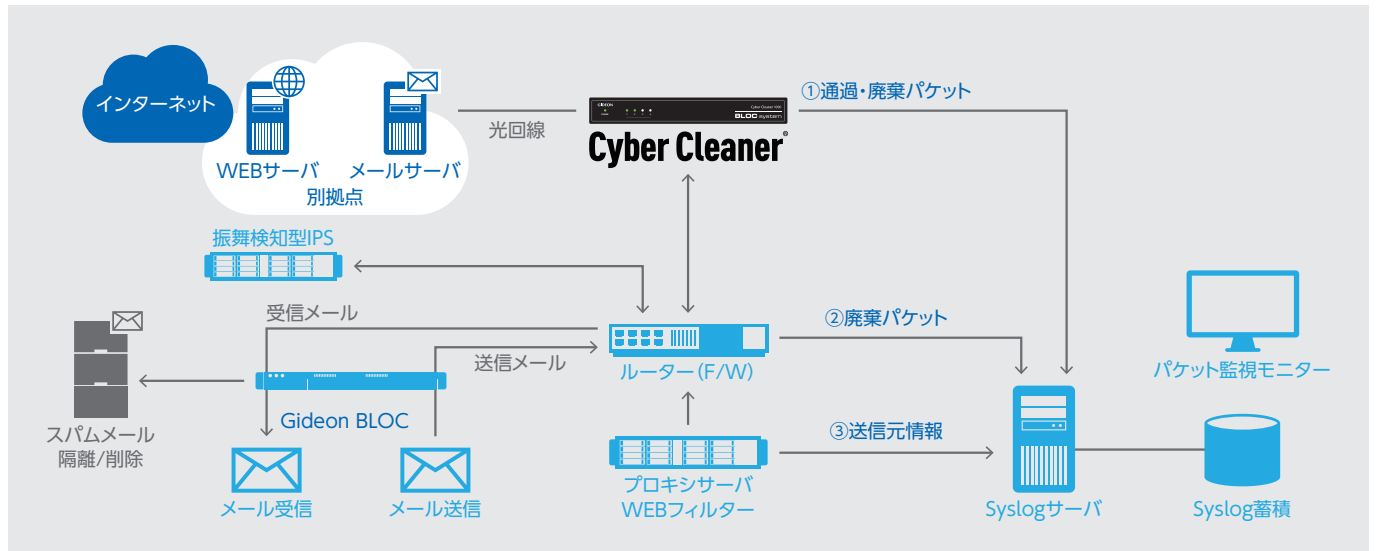
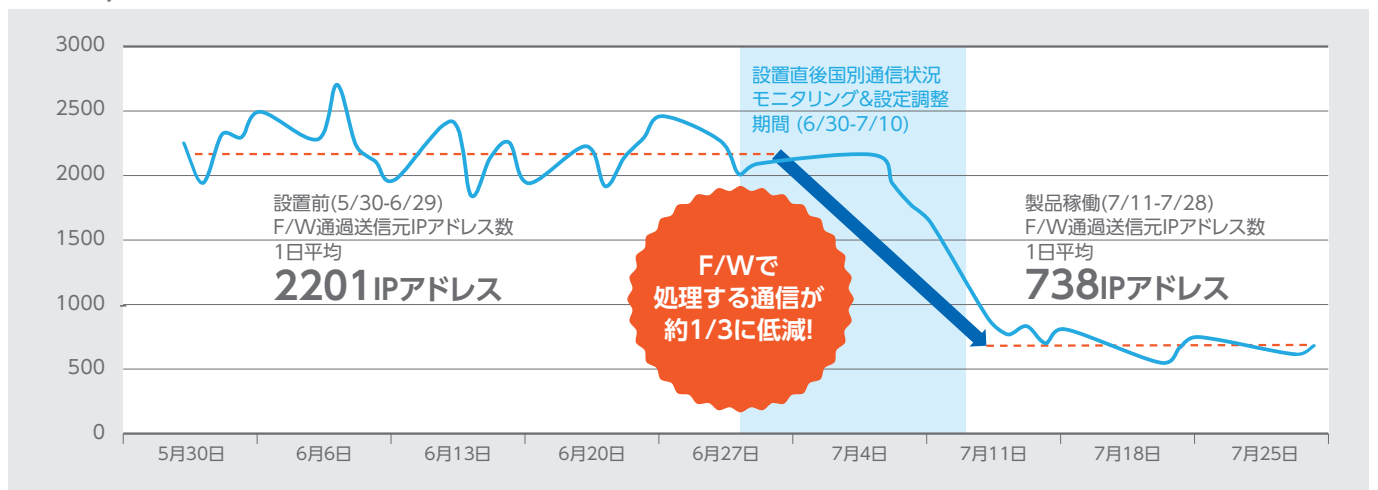


図2: 「Cyber Cleaner」設置後のファイアウォール処理負荷の推移



## GIDEON

### 株式会社ギデオン

〒223-0056 横浜市港北区新吉田町3382-7  
TEL. 045-590-1216  
EMAIL. info@gideon.co.jp

<http://www.gideon.co.jp>